夢洲における物流交通対策

令和3年3月23日

大阪港湾局

資料5

万博開催時の物流交通対策（案）

〇現在も夢洲では、コンテナ車両が集中する日・時間帯において、道路上にコンテナターミナル入場待ち車両の滞留が発生する場合がある。
〇さらに、2025年日本国際博覧会開催に伴い、交通量が増加し、円滑な交通が阻害される恐れがあることから、万博来場車両のみならず、物流車両についても交通円滑化のための対策が必要となっている。

②車両待機場の整備
（240台分確保）

①CONPAS(※)の導入
（ゲート処理時間の短縮等）

（※）Container Fast Passの略

⑤咲洲へシフト

②車両待機場の整備
（150台分確保）

③ターミナルゲート時間延長
（30分で最大200台分散）

（通常）平日：8:30～11:30,13:00～16:30
土曜：8:30～11:30

④荷捌き地の拡張（ゲート増設）
（ゲート前待機スペース100台分確保）
（ゲート増設により、1時間当たり120台削減）

⑤咲洲へシフト
⑤-1．船舶着岸場所の咲洲シフト
⑤-2．空コンテナ返却場所の咲洲シフト

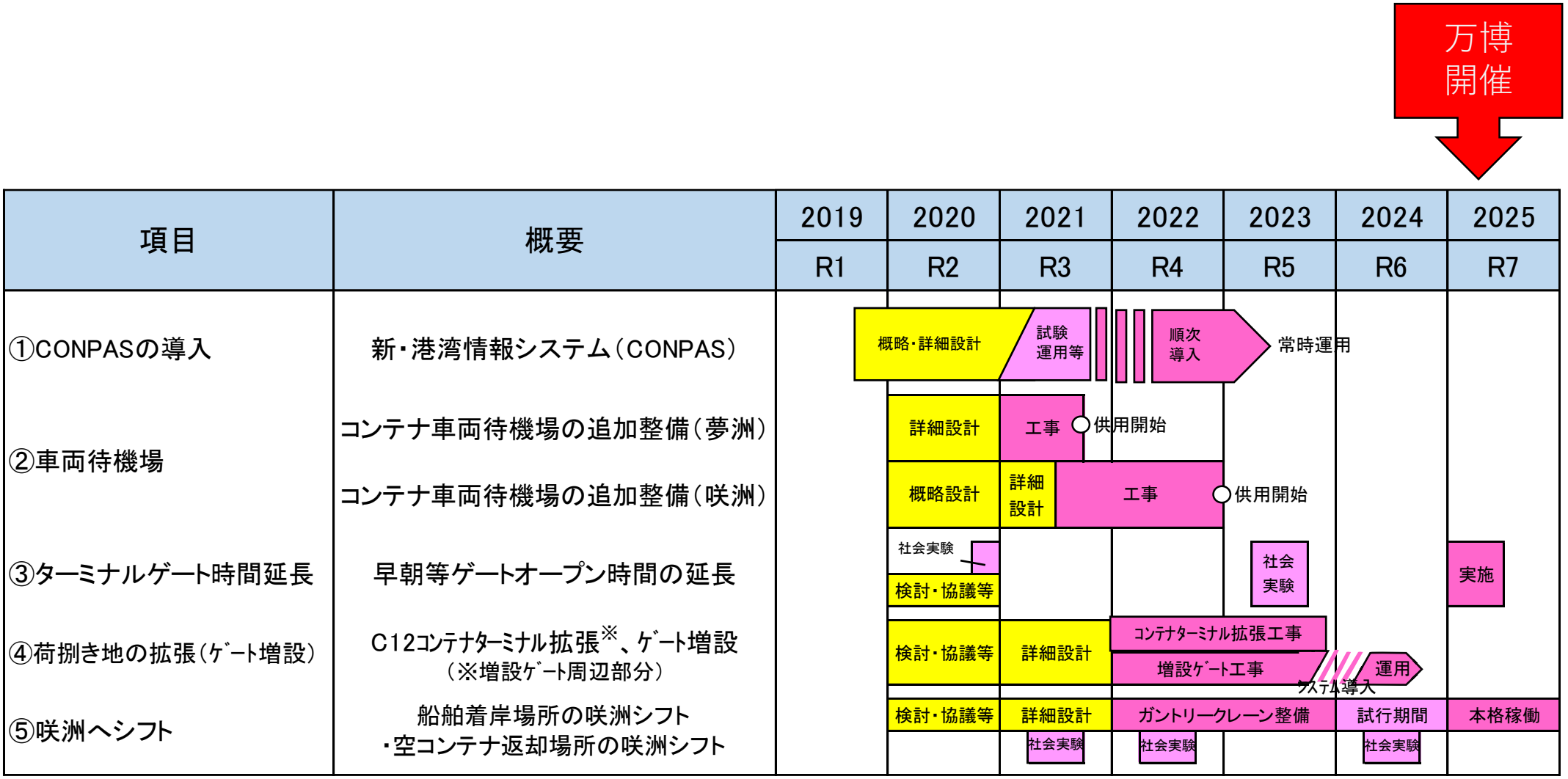
（写真はイメージ）

資料5 —2

今後の物流交通対策（案）

	恒久的な対策	万博期間中のみの対策
夢洲の発生集中交通量のピークカット	**①CONPASの導入** （ゲート処理時間の短縮等）	**③ターミナルゲート時間延長** （30分で最大200台分散）
夢洲の発生集中交通量の削減		**⑤咲洲へシフト** **⑤-1．船舶着岸場所の咲洲シフト** **⑤-2．空コンテナ返却場所の咲洲シフト**
その他 （車両待機場所の確保、コンテナターミナルへの引き込み能力の向上）	**②車両待機場の整備** （夢洲240台、咲洲150台分確保） **④荷捌き地の拡張(ゲート増設)** （ｹﾞｰﾄ前待機ｽﾍﾟｰｽ 100台分確保） （ｹﾞｰﾄ増設(17→22ﾚｰﾝ)により、1時間当たり120台削減）	

物流交通対策概略工程（案）

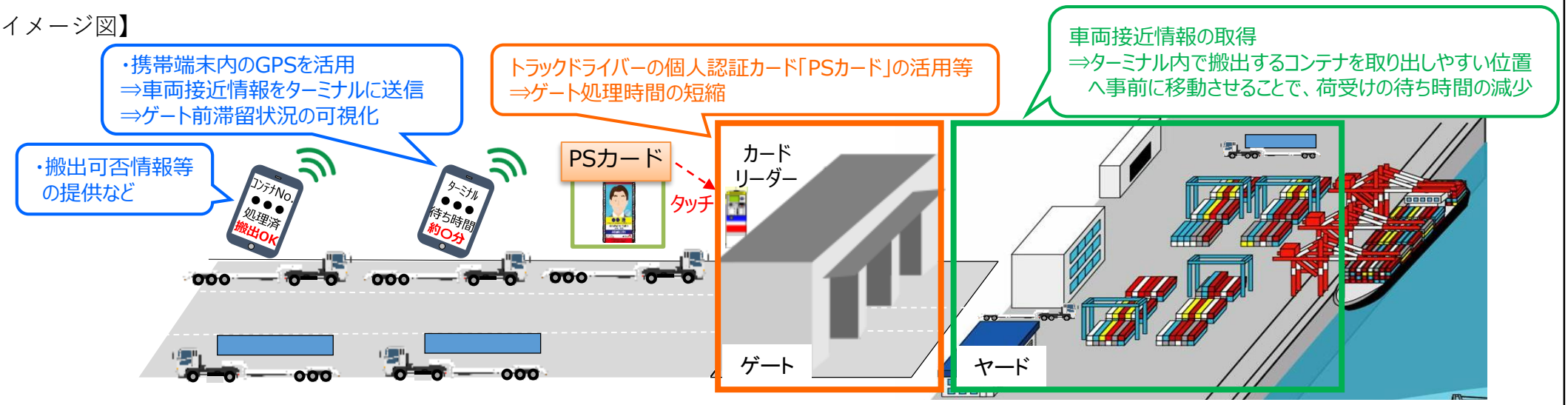


今後の取り組み

○新・港湾情報システム（CONPAS）の導入

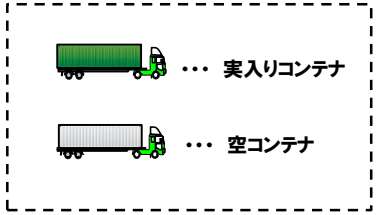
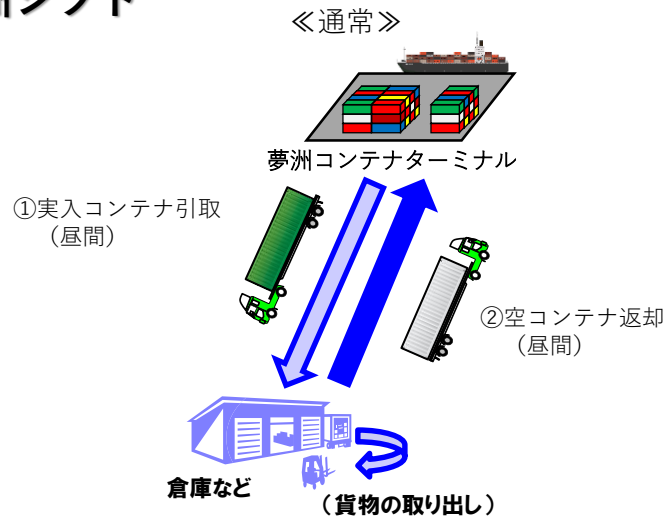
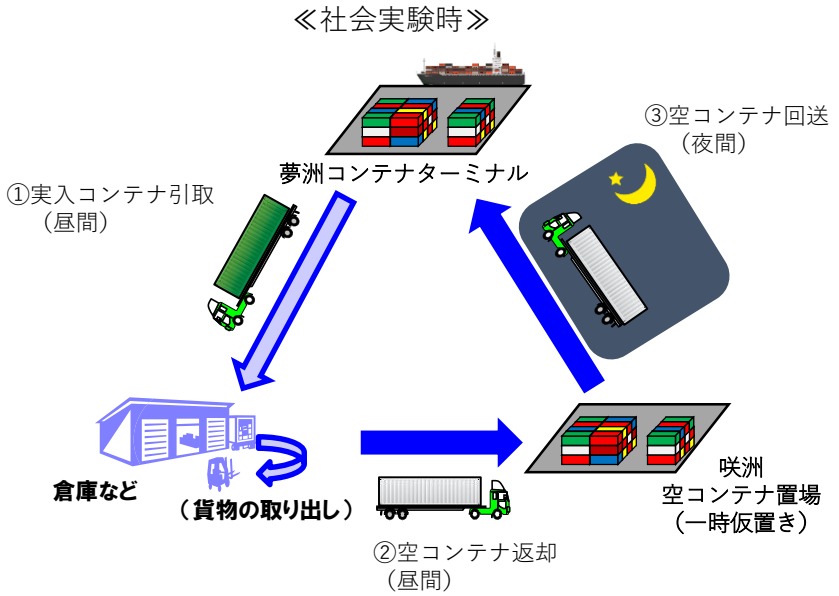
CONPASは、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を図り、コンテナ輸送の効率化及び生産性の向上を図ることを目的として国土交通省が開発した新・港湾情報システム。

【イメージ図】



≪導入スケジュール≫

- 令和3年3月　神戸港（PC-18）において試験運用を開始予定
- 令和3年度　大阪港（DICT）において試験運用を開始予定　⇒　令和5年度までの導入をめざす

○空コンテナ返却場所の咲洲シフト

- 令和3年度に社会実験を実施